

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

国鉄35万人体制—経営改善計画粉碎

日刊 動労千葉

81.9.27 全国版 No. 95

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)公衆(四三)二七二〇七

軍事大団体化攻撃と対決する反合同闘争を！

全国の動労組合員のみなさん。九月二十一日、国鉄当局は各組合に「昭和六十年までに国鉄経営の健全化を確立する」ための、「経営改善計画」を提示しました。この「計画」の骨目は、運転保安等は一切無視し、無人化、外注化による要員合理化のみを追求するものであり、しかも「五五年度会計監査報告」で明らかにされた「赤字の増大」「貨物部門の落ち込み」を理由に、当初計画よりも三五万人合理化の進行を早めるというものです。

明白な軍事大団化へ向けた国鉄作り策動

この「経営改善計画」の最大の問題点は、「作られた赤字」の圧力をもってするデッチ上げの机上論であり、職場の実情、沿線住民の生活を一切無視し、公共企業体としての国鉄の任務を放棄し、闘う国鉄労働運動を圧殺して「軍事大団化のための国鉄」作りを強行しようとしていることです。「国の基幹的輸送機関としての使命を果すため」と称して、「経営の重点化」という名の地方交通線等の切り捨てと「徹底した経営努力」という名の要員合理化を強行しようとするこの「計画」を認めることは絶対にできません。

そもそもこの間のわが国鉄における合理化の歴史、世界各国の国鉄合理化の歴史を見ても、「人減し合理化」「ローカル線切り捨て」で「赤字」が解消されたことは一度もないのであり、「国鉄問題」の本質が、この「計画」ですら「構造的問題」として出さざるを得ない「大企業のための国鉄」軍事大団化のための「国鉄」政策の中にあることは明白です。

われわれは、新線建設や線増工事等々の「大企業のための施策」を「国鉄の借金」という形で強行し、その矛盾を「人減し合理化」や「運賃値上げ」で労働者・人民にシワ寄せしてきた結果としての当然の破産を、さらなる労働者・人民からの搾取をもって乗り切らんとする「経営改善計画」を粉碎するために今こそ決起しなければなりません。

当局に職場を売り渡す 「本部」反動分子の「安定宣言」路線

この闘いに当って、われわれは、「構造的問題」が膨大な軍事予算増と福祉予算切り捨てに見られる日本帝国主義の支配の根幹に関わる問題であることを厳しく見据えなければなりません。「軍事大団化と対決する労働運動」以外に、こ

この間国・動労中央の主導する国鉄労働運動は

「構造的問題に行・財政上の措置を求めろ」という国鉄当局と全く同じ立場からの発想による「政策要求闘争」に陥り、むしろ職場・生産点からの闘いへの活性化を抑え込む役割を果してきたと言わなければなりません。とりわけ、助士廃止反対闘争に代表される動労の戦闘的闘いの歴史を、「安定宣言」路線をもって当局に売り渡し続けてきた「本部」反動分子の裏切りは断固糾弾されなければなりません。

反合・三里塚ジェット闘争をともに闘おう！

動労千葉は、この間、「人減し合理化は必然的に運転事故につながる」という職場・生産点からの当然の要求を闘いとして組織し、「事故問題は闘いにならない」という「本部」反動分子の妨害をはねのけて勝利した船橋事故闘争をはじめとする反合・運転保安闘争を闘い抜いてきました。そして、労農連帯・三里塚ジェット闘争を貫徹する中から「反合・三里塚ジェット闘争をもって激動の八〇年代を闘い抜ける自前の労働運動」軍事大団化と対決する労働運動の路線を確立してきました。

「安定宣言と水本問題」を路線化する「本部」反動分子の腐敗・墮落と対極をなす動労千葉の路線的正義性と八一・三ジェット決戦闘争を頂点とする闘いの実践によって「三里塚を闘う労働運動」軍事大団化と対決する労働運動は、いまや、全国の多くの労働者・人民の共通の闘いとなっています。

全国の動労組合員のみなさん。路線的正義性を守り、闘いを実践する動労千葉とともに、国鉄三五万人体制粉碎・「経営改善計画」粉碎へ向けて、ともに決起しようではありませんか。



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！